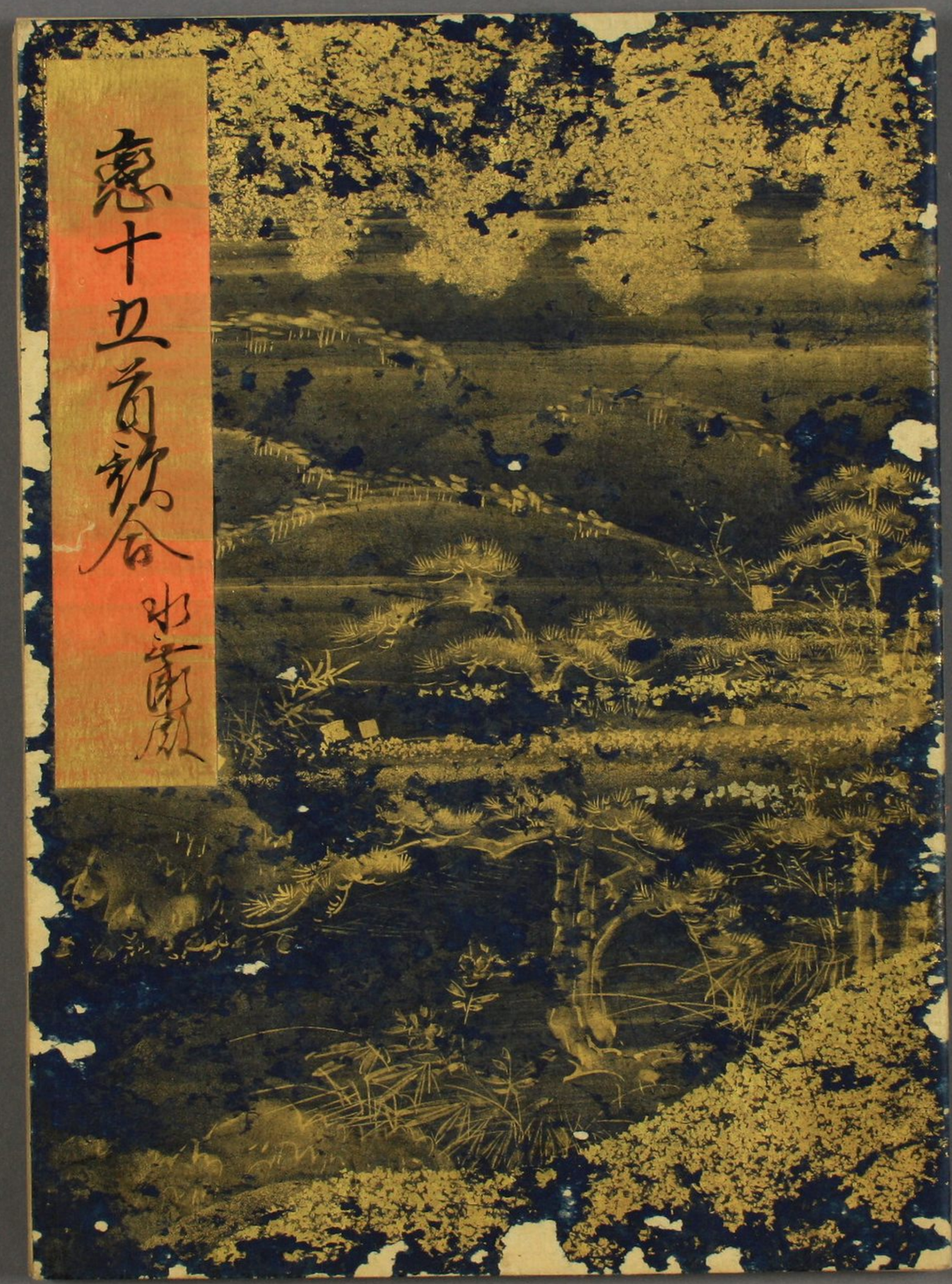

憲十五周年

天曜文庫

寛平五年三月十三日 水亭殿厳

題

春恋　夏恋　秋恋　冬恋

曉恋　雷恋　霧中恋　山家恋

旅宿恋　閑路恋　海邊恋

河邊恋　寄雨恋　寄風恋

作者

（後参議従三位）左馬頭敦定　（良経公　按察使）左兵衛督　前大僧正　権中納言二位

俊成卿女　女房三十六人歌合　大納言有家　左衛門督

上総介重隆　左兵衛佐雅経

讀師

判者

雑仰　定家朝臣

高庭幻勝負　短書判詞

一番　春恋

左勝

左大臣

常よりもまる月をみまてと

右

従二位卿女

右勝

左大臣

二番

左勝

新定

右

左大臣

賜

三番

右お

有家勢

又番

左勝

遊女

右

思きや勿ひをそふ梅のえのうつろふのみそんとは
左よりめまりくいほんとうきてなを
よ枕のかわす月夜をいつもくんにくさん
又しくなりくゆりひきや

又番

左勝

花の色は
うつりにけりないたづらに
わが身よにふるながめせしまに

右

橋本納て

六番

女遊

左勝

やをもるくまりゆをんとこをいつる
常のことくやとくんくくく

七番

左

右勝

左勝

八番

左勝

[illegible]

九番

右 [illegible]

[illegible]

右 [illegible]

[illegible]

十番

右 [illegible]

[illegible]

右 [illegible]

十一番　秋恋

左

定家

右　持

十二番

左

持中納言

右　持

十三番

左　　雅経

十四番

左　　後鳥羽院

十五番

左

右

物うてたたそよ共なよ
あ当共人なきなむ
如よ一きる給りし
給来そ森の上共
そ給やそうやたる
たとつるうそ
まうめうやる
十文當
左
物そ給いそ主の
宮内て
左大弁宰相
思ひ給ふ事なの秋のあなた
左京大夫
左
家隆
左大弁宰相
十六番　冬恋
左
君ものそう給いそふ恋のほうてそ
右勝
雅経

十七番
左
文治
十八番
左 後
うつりゆく海の気色もおもしろき
右
名所にて家隆卿
権中納言

十九番

左 結

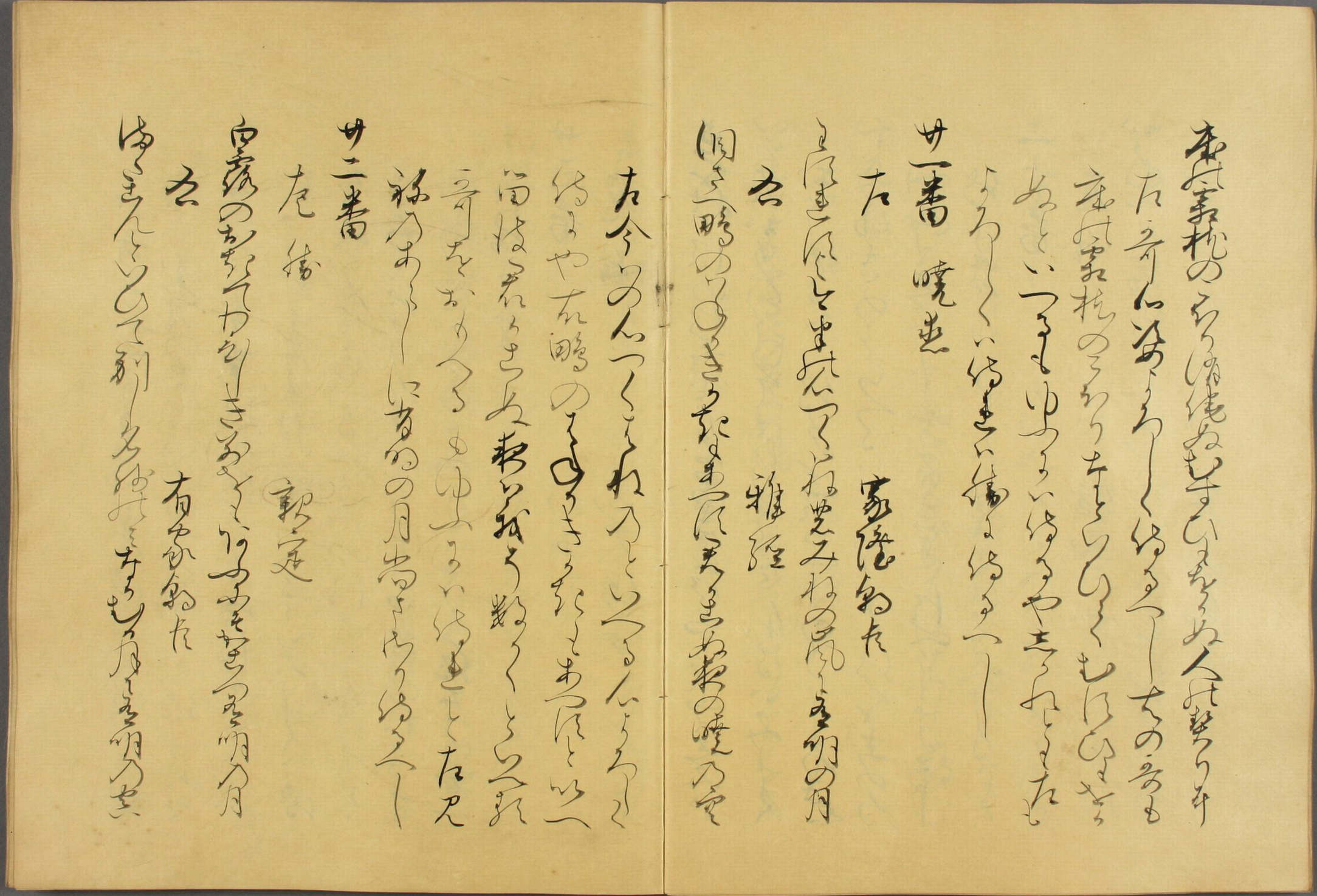
女

二十番

左 結

女

右



本事松のもとに俤おもひ出人共契りて
左　奇仙
本事松のもとにて人共契りて
あとをいつもゆかしくおもひ出
よろづくに偕老
廿一番　曉出
右
家隆卿
同き二時のつのきりぎりす
左　雅経
廿二番
左持
白露のおきてわけさる明方
右　有家卿
ゆきまんとひて別る夕暮
右今つのんつくそれとこそ
ゆるや左明のきりぎりす
雨はれきてあきの風
奇をおりくるも
秋のあらしにあの月
判定

廿三番
左持

廿四番
左

廿五番
左

右

廿五番

右

廿六番　善恵

右

親定

いろをんこあまたの神のまつ月をのこる夕雲
　　右　　　

たお

多かき志む人なき家の夕さ者旧き軒をそら
ゝ

紅梅御女

た

萩の葉は風もそよくと夕者やく人や来つゝと思初そん
ゝ

布留御方

た

ほとゝぎす多ゝ者共き汁うう更ゆうう
た人なき家の夕さ者旧き軒をそら
てうよ者ゝ也うそ家の月をうつしてう
そ那見ちりけ留とうる又数そ徒ゆ
まいおうくたゝ

桔梗御女

萩の葉ふく風すゞしく人を迎ふと
なのりそめんとうつるやけふこゝ待つ雪
つゝその雪折ねを惜まなん人
をこふとそうつるこゝろをおもつるかな
雪折もうきものとこそ思ひしか
よ頃待しかひなう

廿一番　霧中述
左
霧こめて雲井もはるゝ旅衣
立帰まつ
右持
家陸奥

定家卿
左
霧こめて雲井もはるゝ旅衣
立帰まつ
右持
家陸奥

廿二番
左
武蔵野やひとり思ひもなぐさめて
右
草枕ゆくさきつゝく夢路哉

有家卿
左
武蔵野やひとり思ひもなぐさめて
右
草枕ゆくさきつゝく夢路哉

廿三番
左 持

廿四番
左 持

檀中納言

右

三十五番

左持

前大僧正

右

三十六番　山家恋

左

人しれぬ思ふてふ山里の松の

後拾遺女

右

右

廿七番

左持

右

廿八番

左持

右

親王

家隆卿

[illegible]
左の後

廿九番

左　後

[illegible]
[illegible]

右

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三十番

左　お

[illegible]

右

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三十一番　恋

左　後

親定

里いまき尾よ
七
仁来さてと
きこのおみ
乃し給りも
いた乃緒
四十二番
左お
わさ人のうらまつまき
右
家隆卿
ちち波や志ぐれ乃雨乃ふ里
左このわさ人のうらまつ
みこうし志ぐれ
かくすめお
四十三番
左お
名ごや乃ご神乃社乃
ふるのまつ井里よ
左ふりみきの
後成卿女
天智御正
秋乃夜乃月
人いそ
秋乃

[illegible]

やはらん幼き事を
こゆるおもひにこそ

四十四番

左

[illegible]

大納言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又おなじ宝治
四十八番
右 持
おもふ人をうきものの
右
思ひの外なる人をうきものの
右の持川さもまことにおもひたえたるさまもつくづくと
面白き歌いみじくやさしくおぼえ侍るを
四十九番
右
あともなくおもひのこすの
右
うき事ばかりなるなどしくおぼえ侍るを
右なげのごとくちりぬるかなんぬ
又
く侍るを右持とさだめ侍るなり
又十番
右 持

又人丸の歌をとりて神をまつる通路
左右のさうわるさせるよりてあるたの
う歌名とりくをいうみそのの
通路をもまつりやとそてをまつ
とおをはをまつるよけつ

又十二番
左 修験
あの坂のタつをとうよなまえ
右
あこそつ杜やつきタうたなさ

雨ふりあの坂よせをいく祖の指芳をあ
やとタくをまつ左指をりそうまの
きんそゆ（ちきふまあるをまつ
をんをん

又十四番
左 修験
私生やまの世ちきてすう川まるよ神のくまる通
右
こまをえをうをとそやまとえをや神の原の月名
左方此うをまをとくる川やつくをを

左 猪

左 猪

右

左 お

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十番

左

[illegible]

権中納言

[illegible]

右 持

家隆朝臣

[illegible]

[illegible]

六十一番 川邊恋

左 持

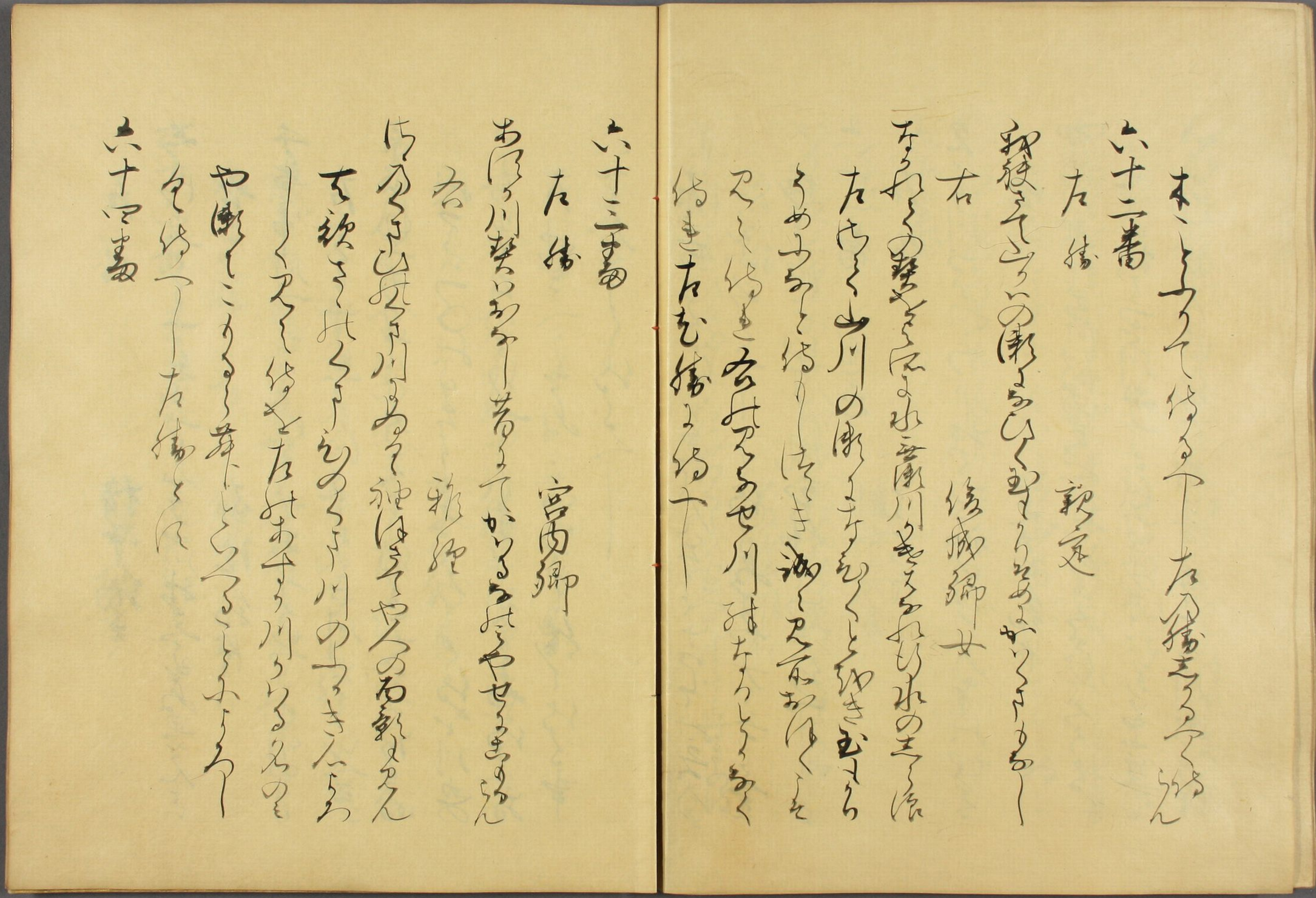
[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]



古体

檜中納言

右

千馬渡川のもとにてをりてをる
古こそすき川ともいへ
とのへてこそ
ちりくるを川
古体へうきあ
ようくいへる事

六十五番

古体

檜中納言

右

吉野川をへだてゝ
古こそすき川ともいへ
ながらや古こそ川
ながら川とよめり

六十六番 岩雨恋

古

檜中納言

[illegible]

七番

左　俊成卿女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十七番

左

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十八番

左　俊成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十九番
左勝　前大僧正

六十九番
左勝

仍て左後と外ち

七十一番　嵯峨風雪

左　持

ちやいろふうりの雪ちる風も松も高尾の

有家卿

右

きりひてなをまよふらし雪の神の杜の名

右神の杜風数そへて雪も積をたゝ初時雨

をそゝく仍てや

七十二番

左

柱中納言

文内て

左後

いつもそと分るかりのおとつれて雁風やもゝくさ

右持

左ふしくらし風や雪ちるまき立の外いさりせよ

家隆卿

おとそとひくかりかねのうちうらん

七十三番

左後

雪さえまさる夜半の月かげ

右後よ外ち

右 後成

親宣

前大僧正

右

七十四番

右 後成

親宣

右大臣

七十六番

右

[illegible]

右 持

[illegible]

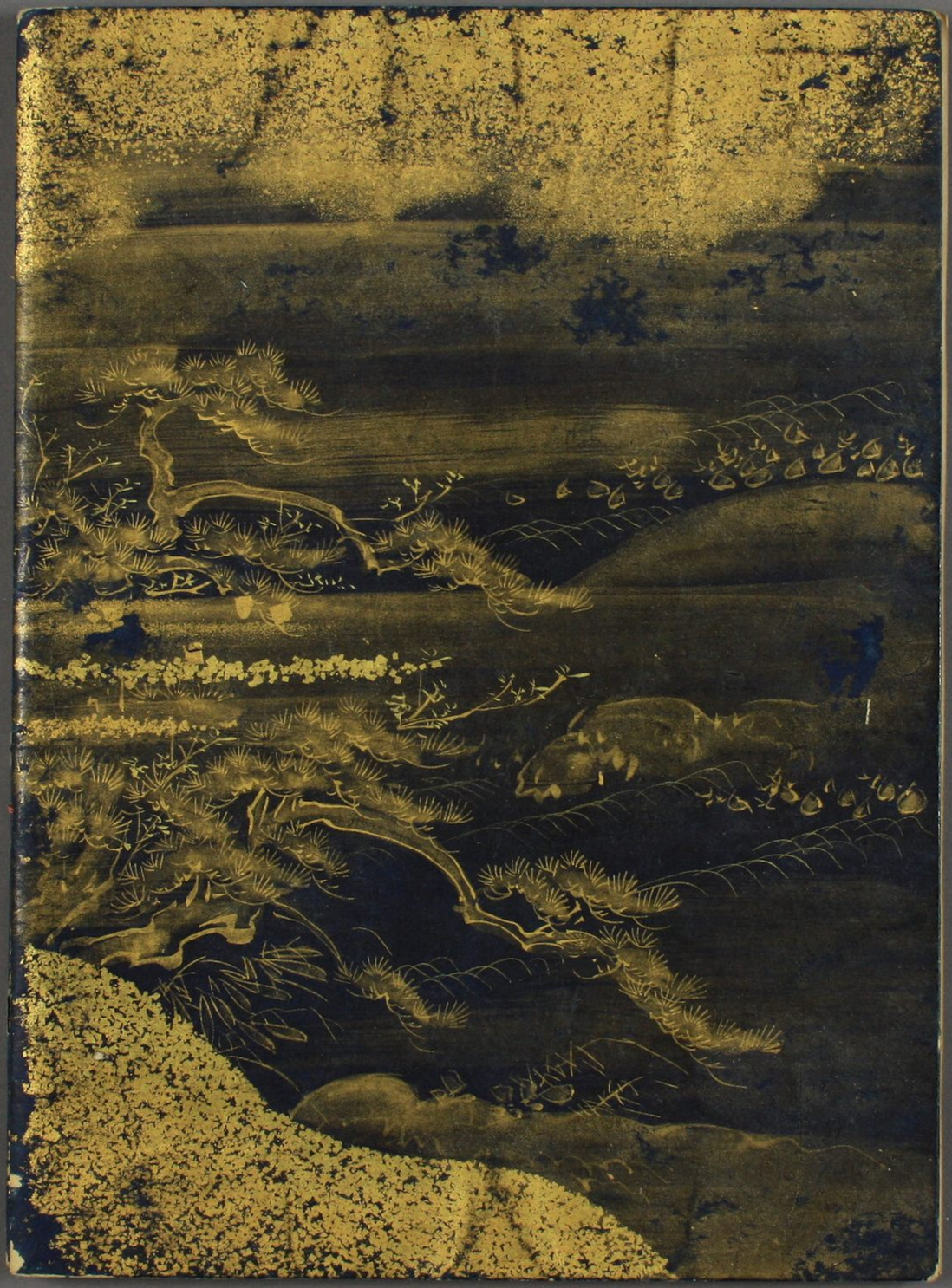
[illegible]

右 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右此一冊後移名院仍覓之以沛自筆
書寫校合了